

SORA

web magazine 2015.nov. vol.64

RAJA AMPAT INDONESIA

MAP
CLICK!

PHOTO & TEXT : YASUAKI KAGII

リゾートステイで楽しむラジャアンパットの海!

ラジャアンパットは、インドネシアの東端に位置する世界でも有数のダイビングエリア。1508種類の魚類、537種類のサンゴ、699種類の軟体動物類など驚異的な生物多様性を持つ、ダイバー憧れの地である。これまではダイブクルーズがメインとなっていたが、リゾートステイも面白い。今回は、ジャカルタ、マカッサル、ソロンと経由し、マンスアール島にあるラジャアンパットダイブロッジに滞在して、ダイビングを楽しんできた。リゾートステイになると潜水範囲は限られるが、それでも「やはりラジャアンパット!」素晴らしい海中世界が広がっていた。



tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2015
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.



S 驚き
SURPRISE



ラジャアンパットの代名詞・The Passageを潜る！



RAJA AMPAT
INDONESIA ラジャアンパット



S 驚き
SURPRISE



The Passageには、 他の海にはない景色が広がっている

リゾートから約1時間、スピードボートで移動して、GAM島の北に位置するThe Passageへ。ここはラジャアンパットを一躍有名にしたポイントで、緑に挟まれた狭い海峡の中をダイビングする。見所は両端のエリア。木々の木漏れ陽の下に、大きなイソバナやオレンジ色のソフトコーラルが群棲する。時間帯によって変化する太陽の光は、様々な角度、大きさに水面から飛び込んでくる。その下にあるソフトコーラルは、その光の調子によって、スターになったり、脇役になったり。カラフルなサンゴと、見上げると水面に映る木々がなんとも不思議な雰囲気となる。水面下には、テップウオも泳いでいる。水面上を気にしながら泳ぐ姿は、いかにも獲物を探している感じでなかなか愉快。海底には、様々なホヤがあり、そこにテールスポットブレニーやウミウシがたくさんいるので、視点を変えて楽しむのも良い。最後は、流れに一気に乗ってドリフトダイビング！まるでジェットコースターのように、気分は最高だ！



RAJA AMPAT
INDONESIA ラジャアンパット



S 驚き
SURPRISE



RAJA AMPAT
INDONESIA ラジャアンパット



鍵井のお薦めは、Otdima Reef。 海の中に無尽の生命が存在していた

リゾートからほど近い Otdima Reef に潜る。ここが本当に面白かった。細長い隠れ根を潜っていくが、水深 5 m のトップリーフは素晴らしいサンゴのフォーメーションで、たくさんのリーフフィッシュが群れている。中層にはクマザサハナムロ、ハギの群れが多く、海の中に溢れる生命を感じる。東端の潮の当たりの良い場所の水深 15m に大きな根があり、そこにラジャアンパットでは人気のリボンイエロースイートリップスが塊となって群れ、

その周囲にはキンメモドキとスカシテンジクが群れている。その様子がこの海の豊穣さを表現しているようで、本当に素晴らしい。そこだけでも十分1ダイブ居ることができた。Otdima Reef は忘れられないダイビングポイントとなった。



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく





季節外れのマンタが登場！ 白も黒も入れ替わりでクリーニングステーションへ！ この海には、私たちが考える基準はないのかも？

ラジャアンパットのマンタシーズンは、通常10月～3月までと言われている。取材時は5月だったが、前日のマンタの目撃例があり、Manta Sandy へ。広い砂地にマンタのクリーニングステーションがある。そこに白や黒のマンタが集まってくる。ここが他のマンタポイントと明確に違うのが、砂地に岩でラインが引いてあり、それ以上マンタに接近してはいけないというルールがある。このラインは明確だから、撮影するには大変不利になるが、改めてマンタの行動を見る良机だった。クリーニングステーションの周囲を大きく旋回して、くいくいとお尻のあたりを振るマンタ。美しくかつ、ちょっぴりキュートな泳ぎに釘付けになる。時折、そのラインをオーバーラップして私たちのところに遊びに来るマンタがいる。その時はシャッターチャンス！ ファインダーいっぱいには写る彼らをクリアに画像に収める。また、隣の Manta Ridge もマンタポイント。ここは潮の流れがあるようだが、マンタと大接近できる。

R ロマン
S ROMANCE



RAJA AMPAT
INDONESIA ラジャアンパット

ラジャアンパットの夕焼けはいつも素敵。 島滞在で感じる、とてもとても贅沢な色

1日、3ダイブを終えて戻るボートの上から、サンセット&ナイトダイブを待つ合間、空はすごいことになっている。間違って部屋の中にいたら大変。この旅の大きな幸せを逃がしてしまう。



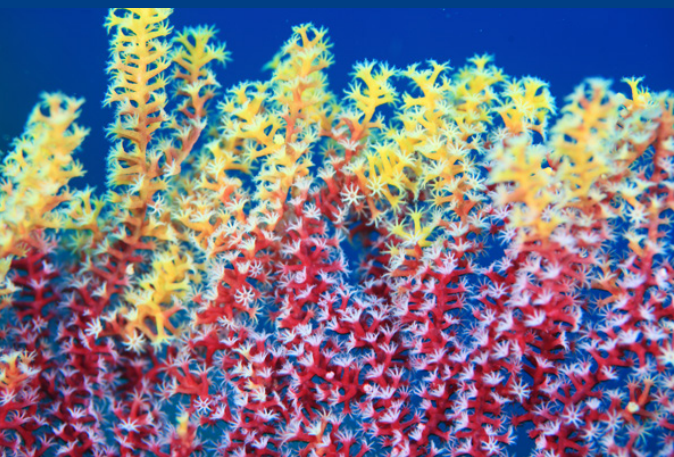
tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島



今回は7日間ダイビングができる日を確保できたので、たくさんのポイントに潜ることができた。ただ日程的に、大潮周りではなかったために、潮流を楽しみ、大物を見るポイントでは、少しもの足りなさも感じたが、それでも十分に素晴らしいポイントが揃っていた。中でも、ガイドのオビンとレフリー、そして私（鍵井）がおすすめするポイントを紹介したい。

Mike's Point

リゾートからボートを15分ほど走らせた位置にある Mike' s Point。オーバーハングの壁から少し水深をあげるとお魚がごっちゃりと群れていた。サンゴの隙間に隠れるキンメドキにそれをねらうユカタハタ、クロハタ、そして中型のアジが徘徊している。可笑しかったのは、その上にスズメダイの大きな群れがいたこと。まるで、私たちを食べるよりも、この小さなキンメドキの方が美味しいよ？！といわんばかりにアジと仲良く泳いでいた。



Blue Magic

水深10 m のトップルーフからなる隠れ根で、潮の当たりが良いとギンガメアジやバラクーダの群れが見られるそうだが、残念ながら潮の流れがなく、チョロチョロとギンバラの群れが…。米粒ほどのヒポカンパス sp を見た後、ガイドのレフリーが大きなリアクション。指差す先には、大きなオオセが横たわっていた。強面の顔に少し警戒しながらも、接近撮影を行った。

ラジャアンパットの宇宙と繋がる栈橋

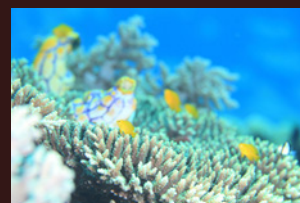
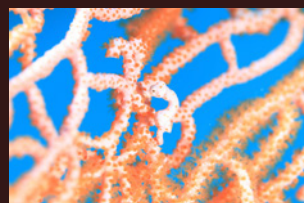
Arborek jetty でのダイビングも刺激的だった。ここは約10年前にダイブクルーズでラジャアンパットを訪れたとき潜ったことを記憶していた。地元の島の栈橋からエントリーする。古い栈橋と新しい栈橋があって、新しい方にボートで近づく水面を通して下に無数のお魚がいるのがわかる。エントリーして接近していくと、大きなお魚の群れの塊にすっぽり包まれる。イワシやアジの群れの混合、その2種はほぼ混じり合うことなく、全体として面白い造形に変形し

ていく。この大きな群れの中に入ると時間を忘れる。夢中で写真を撮り、ほとんど撮影したことのない水中動画も撮影してしまった。そして、栈橋の下に行くと、栈橋の陰と青のコントラストが面白い。栈橋の下に居ると、大きなお魚の群れも気になるものがないようで、また違った泳ぎを見せてくれた。これは止められない。この魚群は毎回いる訳ではないようだ。運次第の部分もあるが、この手軽にエントリーできるお魚の宇宙は、是非、体験してほしい。



Cape Kri

Kri島の東にあるCape Kriに潜る。ここは、コーナーでのダイビングとなり、潮当たりの良いリーフで大物を狙うスタイル。エントリーして、コーナーに近づいていくと、まずはタイマイの食事シーンに出会った。食べることに夢中で、私のことは完全に無視。そして、潮の流れに乗って進んでいくと、まずはフエダイの群れに遭遇。そしてナンヨウツバメウオの群れが水面近くに居て、その奥にはギンガメアジの群れが見られる。ナンヨウツバメウオが降り注いでくると、お魚の層が何重にもなる。その光景がなんとも贅沢だ。コーナーの傾斜はドロップオフではなく、緩やかなので、ストレスも少ない。他の海の大物ポイントのような感覚で潜れるラジャアンパットのbigポイントのひとつだ。



RAJA AMPAT
INDONESIA ラジャアンパット



Mioskon Reef

ミオスコン島の周辺のポイント。なだらかな傾斜が続き、砂地とのコンビネーションが整ったリーフを潜っていく。潮当たりの良い先端には、クマザサハナムロ、ユメイロモドキなどが群れ、リーフにはヨスジフエダイの大きな群れが見られ、賑やかな様子。リーフの上にある小さな根にはキンメドキの群れやコショウダイの群れが多い。根の先端でゆっくりにしていると、色んなものが見えてくる。穏やかでピースフルな素晴らしいポイントだった。

R ロマンズ ROMANCE



RAJA AMPAT
INDONESIA ラジャアンパット

ナイトダイブは 刺激的？

5時半からのサンセットダイブにするか？ 6時半からナイトダイブにするか？ 迷ったけれど、サンセットのニシキテグリの放精放卵は、少し可能性が低いということで、確実に見られるトードフィッシュ狙いでナイトダイビング。サンセットもナイトもリゾートの栈橋からエントリーする。エントリーしてまずはぐるっと回る。ニシキフウライウオやオリビアシュリンプなどを発見。夜の海もなかなか面白いな、と思っていると、どこからともなく聞こえてくる「グ？ グ？」と言う声。この真つ暗な海に響く奇声は、トードフィッシュの声。ぐるっと1周して栈橋の下に戻ってきた時に、ガイドのオピンが、まるでゴロタそっくりに擬態するトードフィッシュを見せてくれた。正面顔がなんともかわいい。そして、こっちに来てと誘われた水深4 m ほどの岩の穴を覗くと、片目の潰れたトードフィッシュがいた。その顔の下を見るとなんと20匹以上の子供たちが！ 子育てをしてる！ と大感動。思わぬ出会いに大興奮のナイトダイブとなった。

歩くサメを求めて！

6時半に集合してナイトダイビング。目的は歩くサメ、ラジャ・エボレットシャーク。まず通常のナイトダイブのコース。水深5mくらいをリーフ沿いに泳いでいく。岩礁の隙間に1匹のラジャ・エボレットシャークがいた。でもまだ小さい個体で、撮影しているとすぐに逃げてしまった。その後、とても大きなウミウシを撮影したりまたトードフィッシュを観察したり、そして最後の最後にガイドのオビンが浅瀬の藻場の中で、ラジャ・エボレットシャークを発見。歩くように泳ぐ姿はやはり可愛かった。



A 行動 ACTION

Raja Ampat dive lodge

ソロンから約2時間半ボートで移動する位置にあるマンスアール島にあるラジャアンパットダイブロッジ。ダイブクルーズのルートの後半には後半に潜るエリアで、The Passage を初め、Manta Sandy など素晴らしいダイビングポイントが周囲に点在する。マンスアール島は背の高い大きな島で、その中央にラジャアンパットダイブロッジは位置する。海岸線約100～150 m ほどの敷地内に木製のコテージやレストランがある。コテージタイプは、デラックス（計20部屋）とスタンダード（計7部屋）。木の温もりを感じ、またオーナーの趣向で少しバリスタイルを取り入れたお洒落な造りとなっている。食事は3食ビュッフェスタイルで、お肉、お魚、お野菜、パスタ、スープ、デザートなど美味しい。ゲストの人数によってはコースメニューになる。海岸線に張り出した栈橋などから見る風景や夕焼けはとても美しい。



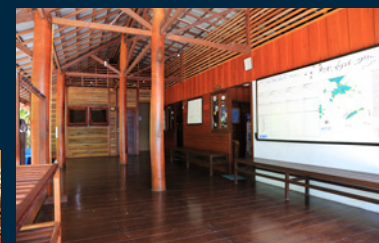
Diving Center

Raja Ampat dive lodge に併設されているダイビングセンター。

ガイド&スタッフ陣は全てインドネシア人で、気さくで良く気がつく。ダイビングスタイルは、基本的にボートダイビングで、近いポイントへは10分、遠いポイントは The Passage で約1時間（海洋状況によって異なる）。ゲストのリクエスト次第で、午前中2ボートダイブ、ランチはリゾートで食べ、午後3時から1ボートダイブで、その後、サンセットもしくはナイトダイブか、ランチボックスを用意して、1日4ダイブを日中に行うスタイルもある。そのような打ち合わせは、夕食の後、担当ガイドが翌日のスケジュールを決めるために席までやってくる。その際にログ付けも可能。所有ボートは4隻。1グループ最大6名までの少人数制。ナイトロックスは用意されていない。



RAJA AMPAT INDONESIA ラジャアンパット



tsumi-shima
ダイバーの夢をつまあげていく

